

## ◆生物多様性の現状◆

- 人間は種の絶滅速度をここ数百年でおよそ1,000倍に加速。  
毎年約40,000種が絶滅と推測。(ミレニアム生態系評価・MA)
- 評価対象となった約41,000種のうち、16,000種以上が絶滅のおそれ。(IUCNレッドリスト)
- 熱帯林を中心に年間約730万ha(日本の国土面積の約5分の1)の減少。  
(FAO世界森林資源評価)

## ◆2010年目標◆

「世界、地域、国レベルにおいて、現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」(COP6 (2002年 ハーグ))

「2010年目標の達成に失敗」と評価される見込み

## ◆ポスト2010年目標◆

- ✓意欲的・現実的・計測可能 / 短期目標(～2020年)と長期目標(～2050年)の設定 / わかりやすく行動志向的 とする。
- ✓多くの主体による条約の実施促進・人類の福利や経済的側面、自然との共生といった視点の盛り込み。

# ポスト2010年目標

## ■ 我が国の検討状況

### ■ これまでの検討

- 2009年3月：関係省庁連絡会議
- 5月～7月：有識者ヒアリング
- 8月、9月：NGO/研究者との意見交換会
- 関係省庁連絡会議（10月13日）にて「日本提案（素案）」をとりまとめ
- 神戸国際対話（10月15・16日）において紹介
- ウェブサイトに掲載し、幅広い意見募集（10月30日～11月27日）
- ポスト2010年目標アジア地域ワークショップ（12月15～17日）



### ■ 現在

- 副大臣会合の結果を受けて日本提案の取りまとめ中（12月下旬）



- 2009年内に生物多様性条約事務局に日本提案を提出（予定）

# ポスト2010年目標

## ■ 日本提案(案)の要点

### ■ 構造

● 中長期目標(2050年)

● 短期目標(2020年)

◆ 9つの個別目標

(例)種の保全の拡充・生態系保全面積の拡大

■ 34の達成手法

(例)多様な主体と連携協力した保護区の面積の拡大

▼ 具体的施策・手法

(例)管理システムの普及・保護区の指定

▼ 数値指標

(例)保護区的面積

### ■ ポイント

● わかりやすい構造

● 自然との共生の視点

● 多くの主体の行動に具体的につながるもの

● 我が国の先進的な取組を目標達成の具体的手法として提示

# ポスト2010年目標

## ■ 中長期・短期目標(日本提案(案))

### ■ 中長期目標 (2050年)

- 人と自然の共生の実現
- 生物多様性の状態を現状以上に豊かなものへ
- 生態系サービスの恩恵の拡大

### ■ 短期目標 (2020年)

生物多様性の損失を止めるために、2020年までに、

- ① {
  - ・生物多様性の状態を地球規模で分析・把握
  - ・生態系サービスの理解を社会に浸透
- ② {
  - ・生物多様性保全活動の拡大
  - ・持続可能な利用の普及
  - ・悪影響の減少手法の構築
- ③ {
  - ・生物多様性の主流化
  - ・多様な主体の新たな活動の実践

■ 現在

2010

2020

2030

2040

2050

# 生物多様性に関する科学的基盤の強化、政策との連携

地球規模での科学的情報の収集・分析、評価・予測、対策を推進

## 地球規模での生物多様性モニタリング体制の検討

- 既存の情報ネットワーク、国際プログラム(GEOSSなど)、各国の調査研究機関との連携、活用
- 統一的モニタリング手法の確立
- 情報のデータベース・共有化の促進
- 解析による変化の把握、評価の実施

地球規模生物多様性  
モニタリングネットワーク

## 生物多様性と生態系サービスに関する科学政策プラットフォーム(IPBES)

- 生物多様性に関する科学と政策のインターフェース強化のため、仏政府提案を踏まえ、国連環境計画(UNEP)の主導により生物多様版IPCCの設立を検討。
- 2008年11月、2009年10月に2回の政府間会合を開催。
- 我が国はIPBESを推進すべきとの基本的立場。
- 本年9月には、日独環境大臣連名で、各国大臣宛てにIPBESへの支援を要請する書簡を発出。

# CBD/COP10に向けた主要国際会議

